

国際基準の人道支援と 災害対応を考える シンポジウム

2020年
2月 28日 金

10:15~15:30 (9:30~受付)
ラコパふくしま (福島県福島市仲間町4-8)

定員
100名
(無料・要申込)

同時開催



イタリア被災地写真展
イタリアの被災地の現状を伝えます

第1部

被災者が尊厳ある暮らしを送るために…

人道支援の国際基準 「スフィア基準」を知る学習会

講師 松尾 沢子 氏

認定NPO法人 国際協力NGOセンター(JANIC)
コーディネーター
一般社団法人 International Medical Corps
日本事務所 代表



「スフィア基準 2018年」第4版が2018年11月6日に改定になった。被災者の尊厳を守る国際基準「スフィア・ハンドブック」がいったい何をめざしているのかについて、人権(個人の尊厳)と災害支援についての市民向け学習会を開催。

第2部

パネルディスカッション

イタリアの災害初動対応から 日本の避難所のあり方を考える

パネリスト(順不同)

宮定 章 氏(認定NPO法人 まち・コミュニケーション)
大槻 知史 氏(高知大学)
瀬山 紀子 氏(女性防災ネットワーク東京 呼びかけ人)
鈴木 典夫 氏(福島大学)

モデレーター 天野和彦(福島大学)

2019年8月末から「イタリア地震(2009年ラクイラ地震・2016年)の避難所・仮設住宅・住宅再建等の視察中心として、イタリアの生活再建における市民安全省や地域ボランティア組織の災害支援について実施したヒアリング調査を軸に、これまでフィールド研究を行ってきた研究者を招き、イタリア共和国の災害時対策や仕組みについて学ぶとともに、日本における避難所や初動期の災害支援についてそのあり方を問う。

本事業は、Yahoo!JAPANの東北支援プロジェクト「Search for 3.11 検索は応援になる」による寄附により実施しております。

主催 福島大学うつくしまふくしま未来支援センター (さすけなぶる研究会)
共催 一般社団法人ふくしま連携復興センター

国際基準の人道支援と 災害対応を考える シンポジウム

第1部

被災者が尊厳ある暮らしを送るために…

人道支援の国際基準 「スフィア基準」を知る学習会

●認定NPO法人 国際協力NGOセンター(JANIC) コーディネーター
一般社団法人 International Medical Corps 日本事務所 代表

松尾 沢子 氏

大学卒業後、国際協力機構(JICA)に入職、研修員受入れ事業や市民参加型事業に関する事業企画・予算管理などに従事。

東日本大震災発災以降は、スフィア基準を中心とした被災者の尊厳を踏まえた支援の実現に係る各種基準の日本での普及や国際社会での実践支援に関わる。2015年に設立された支援の質とアカウントビリティ向上ネットワーク(JQAN)の責任者を務める。2019年6月からは、米国NGOの International Medical Corpsの日本事務所代表も務める。

タイムスケジュール

9:30～受付

10:15 開会

10:30～12:00 第1部 講演

13:30～15:15 第2部 パネルディスカッション

15:30 閉会

会場 **ラコパふくしま** (福島県福島市仲間町4-8)

講演・パネルディスカッション 会議室 BC [5F]

イタリア被災地写真展 ギャラリー [5F]

アクセス

徒歩 JR福島駅より徒歩約15分

バス 市内循環バス・新浜公園停留所より徒歩約2分
国道4号路線バス・豊田町停留所より徒歩約3分

車 車福島飯坂ICより車で約15分
(ラコパ向かい側最大34台のコインパーキングあり)
※駐車場は台数に限りがございますので公共の交通機関をご利用ください。

第2部

パネルディスカッション

イタリアの災害初動対応から 日本の避難所のあり方を考える

パネリスト (順不同)

認定NPO法人 まち・コミュニケーション 代表 **宮定 章 氏**

1975年、兵庫県西宮市生まれ。大阪大学工学部建築工学科卒業、大阪大学大学院工学研究科修了、神戸大学大学院自然科学研究科博士(工学)学位取得。阪神・淡路大震災後、復興まちづくりに関わるまち・コミュニケーションに参加。東日本大震災の発災後は、月の半分、宮城県石巻市雄勝地区に滞在し、住民の地域生活を感じ、学びながら、地区の持続的な運営を模索中。

高知大学 地域協働学部 准教授 **大槻 知史 氏**

南海トラフ地震が想定される高知で、東日本大震災などの教訓を生かしたコミュニティ防災の支援、防災教育等に従事。生命を守る対策とともに、助かった生命をつなぐ避難所運営のデザインにも取り組んでいる。

女性防災ネットワーク東京 呼びかけ人 **瀬山 紀子 氏**

2011年、東日本大震災女性支援ネットワークの立上げに関わり、世話人を務める。また、埼玉県男女共同参画推進センターの事業コーディネータとして、広域避難者支援(さいがい・つながりカフェ)に関わると共に、各地でジェンダー多様性の視点からの防災講座を実施中。また、DPI女性障害者ネットワークの仲間と共に、障害女性の複合差別の課題も発信してきている。

福島大学 行政政策学類 学類長 **鈴木 典夫 氏**

専門は「地域福祉論」「コミュニティワーク」。以前は、京都市社会福祉協議会に地域福祉活動専門員として従事。その間、阪神・淡路大震災での支援業務を経験。その後、福島大学赴任以降、中越地震、中越沖地震、岩手・宮城内陸地震の長期的支援活動にあたる。2005年から3年間「中越地震による全村避難地域復興にかかる文理融合総合的研究」で科学研究費を受けている。

モデレーター

福島大学 うつくしまふくしま未来支援センター 特任教授 **天野 和彦 氏**

特別支援学校の教員として15年。その後、県教育委員会や県男女共生センターなどで社会教育の仕事をする。2011年3月11日の東日本大震災、東京電力福島第一原発事故に際し、約2500人の被災者を受け入れ、福島県内最大規模だった「ビッグパレットふくしま避難所」の県庁運営支援チーム責任者として運営に携わる。2012年より、福島大学うつくしまふくしま未来支援センターで被災者の生活再建や震災関連死などの調査研究を行うとともに、コミュニティ形成のための支援・研究活動を行っている。防災教育教材「さすけなぶる」の開発リーダー。

事前申込書

氏名		参 加	1部	参加 ・ 不参加 ※○をつけてください。
所属名			2部	参加 ・ 不参加 ※○をつけてください。
連絡先				
E-mail				

※下記連絡先までお願いいたします。電話・FAX・メールいずれかの方法でお申し込みください。

福島大学うつくしまふくしま未来支援センター

[TEL] 024-504-2865 [FAX] 024-548-5244 [E-mail] fure@adb.fukushima-u.ac.jp